

診療支援局：放射線部門

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
診療支援局次長 兼放射線部門長 兼放射線副センター長 兼放射線治療副センター長 兼危機管理室参事	中前 光弘
参 事	小西 康彦
部門長代理	西池 成章
部門長代理 兼放射線治療品質管理室長	田原 大世
放射線センター担当主幹	行 正剛
救命救急センター担当主幹	相良 健司
放射線治療センター担当主幹 兼医学物理室長	前田 直子
業務管理主査	藤村 一郎
技術管理主査	中平 修司
被ばく管理主査	安永 桂介
医療安全管理主査	常玄 大輔
放射線安全管理主査	増田 慎吾
情報管理主査	池本 達彦 (1月退職)
他スタッフ	25名

＜特色と概要＞

放射線部門は、放射線センター、放射線治療センター、救命救急センターにおいて、診療に必要な放射線を用いた検査、治療、およびそれに伴う画像処理業務を日常的に行っている。これらの業務は、各部門がそれぞれの機能を果たす上で不可欠な要素となっている。患者の被ばく線量については、関連法規や院内規定に基づき、記録・管理されており、日々の診療における安全確保に重要な役割を果たしている。部門に所属する職員は、診療放射線技師などの専門職であり、それぞれの専門性を活かして業務に取り組んでいる。また、多職種との連携を重視し、必要な情報共有や協力体制を構築しながら、チーム医療の一員として業務を遂行している。業務の効率化や働きやすい環境づくりにも継続的に取り組んでいる。

＜実績＞

＜認定資格＞

取得資格名	人数
第1種放射線取扱主任者	8名
第1種作業環境測定士（放射性物質）	2名
衛生工学管理士	2名
医学物理士	1名
放射線治療専門放射線技師	2名
放射線治療品質管理士	2名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	9名
乳がん検診超音波検査実施技師	1名
X線CT認定技師	7名
肺がんCT認定技師	3名
医療情報技師	4名
医療画像情報専門技師	1名

医療画像情報精度管理士	6名
画像等手術支援認定診療放射線技師	1名
臨床実習指導教員	4名
放射線管理士	1名
放射線機器管理士	1名
救急撮影認定技師	11名
血管撮影インターベンション専門診療放射線技師	2名
A i 認定診療放射線技師	2名
磁気共鳴専門技術者	1名
核医学専門技師	1名
放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会 受講	6名
日本DMAT	1名
大阪DMAT	3名
告示研修（厚生労働省第273号）実技研修修了者	34名

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

今年度、画像情報システムであるPACSを全面的に更新した。これにより、院内における画像データの共有と参照が効率化され、診断プロセスの迅速化と質の向上が図られた。

手術室にてHybrid-OR装置が稼働を開始し、外科手術と血管内治療の連携がより強化された。本装置の操作および管理は我々放射線技師が担当し、その専門性を活かすことで、患者への負担が少ない低侵襲かつ高度な治療を提供している。

医療機器の維持管理においては、定期的な品質管理と安全点検を徹底し、安定した検査・治療環境を維持している。しかしながら、一部基幹機器の経年劣化は今後の安定稼働に向けた重要な課題である。機器更新の必要性を慎重に評価し、中長期的な視点に立った更新計画の策定が求められる。計画的な機器更新を通じて、常に最新の医療技術を提供できる体制を確立していく。

部門内においては、最新の知識や情報を共有するための研修会や勉強会を積極的に開催し、全スタッフの専門性と意識の向上を図っていく。また、多職種との連携をより一層強化し、密な情報共有を行うことで、患者一人ひとりに寄り添った、安心で質の高い医療を提供できるよう努めている。